

次期可燃ごみ施設整備室だより

第7号
令和元年
(2019)10月

発行／出雲市経済環境部 環境施設課 次期可燃ごみ施設整備室

〒693-8530 出雲市今市町70

☎0853-21-6886 FAX 0853-21-6597



次期可燃ごみ処理施設の建設工事に着手しました

次期可燃ごみ処理施設の建設工事については、本年10月から着手しました。

本年度は杭工事とごみピットの掘削を行い、令和2年度から施設建屋の建設に取り掛かり、順次プラント施設の据え付けを行い、令和3年度秋頃の工事完成を目指します。その後、実際にごみを搬入して試運転を行い、令和4年4月からの本稼働を予定しています。

工事着手にあたり、本年10月1日には建設地において、工事を請け負うJFEエンジニアリングが主催し、市、地元、工事関係者が出席して安全祈願祭が行われました。

市を代表して長岡市長があいさつし、安定的なごみ処理により次期可燃ごみ処理施設が市民生活や経済活動を支える施設となることへの期待を述べるとともに、安全対策の徹底を工事関係者に依頼しました。これに対し、JFEエンジニアリングの環境事業部門責任者である関口専務から安全を第一に関係企業が力を合わせ、無事故で完成させる旨、力強く表明がありました。



安全祈願祭の様子



あいさつする長岡市長



JFE 関口専務によるあいさつ

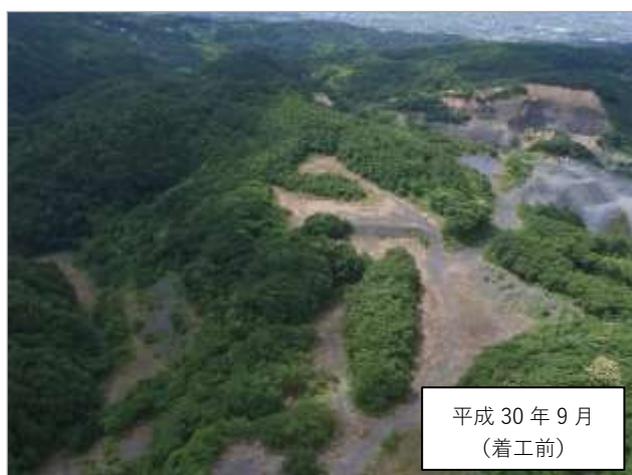


施設完成イメージ(CG)

計画地盤高までの整地を完了しました

平成 30 年 9 月から着手した次期可燃ごみ処理施設の敷地造成工事では、ドローンを飛ばして測量を行い、人工衛星からの位置情報をもとに効率よく掘削できる建設機械を用いるなど、最新の技術を活用して施工を行いました。これにより、従来必要とされていた丁張りや施工作业中の測量とそれにとまなう修正施工作业が大幅に削減されるため、工事期間が短縮できました。加えて、冬場の天候にも恵まれたことから、当初本年 9 月末を予定していた造成高さまでの整地を 6 月末に完了することができました。

現在は引き続き、側溝工事・調整池工事を施工しており、年度内には完了する見込みです。



これまでの造成工事の経過を写真でお知らせします。完成イメージに近づいていくのが見て取れます。

次期可燃ごみ処理施設建設工事 工事車両の安全対策

建設工事にあたっては、資材の搬入・搬出などで工事車両が通行するため、工事関係者の走行ルートを設定し、ドライバーへの注意喚起の看板の設置などにより安全対策を徹底します。

あわせて、現場に入る作業員には交通マナー順守などの安全教育を徹底します。

地元のみなさまに工事現場を見学していただきました

本年7月には希望された古志地区のみなさまに、工事現場の休日を利用して次期可燃ごみ処理施設の建設地で造成工事とアクセス道路工事の現場の状況を見学していただきました。

大きく変わった造成工事現場、アクセス道路工事現場の様子に感嘆の声があがる場面もありました。

今後も工事の進捗に応じて、実施したいと考えています。



周辺地図



次期可燃ごみ処理施設の焼却方式（ストーカ式）とは？

次期可燃ごみ処理施設で採用するストーカ式焼却炉は、日本国内では1963年に初めて採用されて以来、長い歴史を持つ焼却方式です。

構造がシンプルであることから故障が少なく、水気の多いごみを燃やす際の助燃剤も少なく済むという利点があります。

一方、1980年代以降に、ごみ焼却施設から排出されるダイオキシンが社会問題になると、ごみをより高温で燃焼させることでダイオキシン類を分解できるガス化溶融炉が開発されました。ガス化溶融炉には、シャフト式、流動床式などの方式があり、出雲エネルギーセンターで採用している「キルン式ガス化溶融炉」もそのひとつです。

また、ガス化溶融炉はごみを溶融（溶かす）することから、焼却後の残渣が少なくなるという利点があり、最終処分場の逼迫に悩む自治体にも歓迎されました。

しかし、近年、燃焼技術の進歩によりストーカ式でもダイオキシンの発生を抑制できるようになったことから、安定したごみ処理が可能で維持費用も少なく済むストーカ式が見直され、採用する自治体が増えてきています。

| | ストーカ式焼却炉 (次期可燃ごみ処理施設) | キルン式ガス化溶融炉 (出雲エネルギーセンター) |
|------|---|--|
| 焼却設備 |  |  |
| 処理方法 | 前後に往復動作する火格子（ストーカ）と呼ばれる装置の上でごみを移動させながら、ストーカの下から空気を吹き込んで燃焼させます。 | ごみを450～600℃で一度蒸し焼きにし、ガスとチャー（炭）に分解します。その後、ガスを1,200℃以上の高温で燃焼させ、チャーを溶かして処理するという2段階方式です。 |
| 燃焼温度 | 約900℃ | 約1200℃ |
| 構造 | シンプル | 複雑 |
| 焼却残渣 | 焼却灰 | スラグ（※） |

※ガラス状の固化体